

令和2年11月14日

芦屋市企画部市民参画課
課長 川口 弥良 様

(あしや市民活動センター指定管理者)
特定非営利活動法人あしや NPO センター
事務局長 橋野 浩美

「君も今日から新聞記者」報告書

1 日 時：講座 10月3日(土) 15:00～17:00
実践 10月4日(日) 10月20日(火) 10月24日(土)
10月31日(土)
講評 11月14日(土) 10:00～12:00

2 会 場：リードあしや オープンスペース1 他

3 担 当：橋野

4 参加者：64人(県立芦屋高等学校生 クラーク国際記念高等学校)

5 講 師：武藤邦生さん 小森準平さん(神戸新聞社)

6 事業詳細

(1) 目 的：子どもの頃から市民活動に触れて、知って、理解を深める環境をつくること。世代を超えたふれあいと、次世代を担う人材育成、活動人口を増やすことを目的とする。

人の話を傾聴し、文章化することから、自身が理解でき、次へ伝えることのできることの喜びを実感できればと希望している。

(2) 内 容：・1回目：記事の書き方、写真の撮り方等を学ぶ(神戸新聞社)

・2回目：実践(セミナー等でインタビューし新聞を作成)

・3回目：講評と成果発表(神戸新聞社)

実践の場

「防災倉庫撮影」「SDGsを体験しよう」「ふれあいスリランカカフェ」

「みんなで聞いてみよう!」「あしや市民活動フェスタ」

【1回目 講座】

・1回目の講座は、1年生にとっては5W1Hなど初めて出会う言葉もあり、難しい1面もあったようだが、神戸新聞社の模擬インタビューを見てコツをつかんだようで、お互いにインタビューし合い、記事を仕上げている。

【2回目 実践】

・「SDGsを体験しよう!」2人が挑んだ。実際にプレイヤーとしての体験談と、講師へのインタビュー記事を完成させた。

・「防災倉庫の撮影」クラーク生3人が、防災士、防災安全課、教育委員会など撮影に関わった方々のインタビューをした。

・「みんなで聞いてみよう!」ところでJR芦屋駅南側どうなっているの?」には6人

が参加し、話し手の都市整備課の職員にもインタビューを行った。

- ・「第13回あしや市民活動フェスタ」には7人参加し、グラフィックレコーディングの体験や、講師・ゲストスピーカー・伊藤市長へのインタビュー記事を仕上げた。

【3回目 講評】(学) 学生のコメント (神) 神戸新聞社コメント

SDGs

(学) 協調性を学んだ

(学) 自分のことに置き換えて考えてほしいと言われたのが残っている。

(神) 今日は→日付を示す

(神) メリハリをつけるため段落をつける。特にパソコン・スマホで書くときは気を付ける。

(神) 体験をもとに本質をつかんでいるところが良い。

(神) 読みやすい。

(神) 「たくさん」「いろいろ」「様々」は使わない方が良い。何を学んだかを具体的に書くことが大切。

(神) 「コミュニケーション」など単語は間違わない。

みんなで聞いてみよう！記事1

(学) この企画を取材することで興味を持った。うまく進んでほしいと思った。

(学) 関心を持っている市民がいることに感動した。

(学) 芦屋のまちについてもっと知っていきたいと思った。

(学) 完成した8年後に自分たちが戻ってきて、きれいになった芦屋に住めれば良いなと思った。

(学) 芦屋駅の開発については無関心だったが、話を聴き興味を持った。

(神) 施工(工事) 施行(政策) 精算(計算) 清算(決まりをつける) など同音異義の言葉は、取材時に聞いておく。

(神) 難しい内容をよくまとめている。

(神) 見出しに「芦屋」という文字が多い。1ページの中に同じ単語を2つ以上使わない。

(神) インタビュー記事の質疑応答には「」を使った方が、メリハリがつく。

(神) 印象深い言葉を先に出す手法は効果的である。

(神) 人の紹介分は、フルネームで役職も正確に書く。

みんなで聞いてみよう！記事2

(学) 歩道が狭い、横断歩道が分かりにくく利用しにくい2号線に続く道を安全にしてほしいと思った。

(学) 費用はもちろん安全性について語ったことが印象に残っている。

(学) 景観を保ちながら安全性に特化して変わることが楽しみだ。

(神) 文字数が少なくまとめるのは難しいが、よくまとまっている。

- (神) 行政用語は難しいが、分かりやすい伝わりやすい言葉で書かれている。
- (神) 安全、景観、大事な言葉にポイントが置かれており、よく伝わってくる
- (神) 聴き手によってどこにポイントを置くのかは変わっていく。
- (神) 事業費・予算規模は〇億円、完成予定は〇年など客観的な数字も入れる。

第13回あしや市民活動フェスタ

- (学) 一言一句紙に書きとるのが難しかった。
- (学) ゲストスピーカーの中島さんの意欲的な姿に刺激された。
- (神) 語った言葉は「」を使う。
- (神) 中島さんの記事は、最初にインパクトのある言葉を「」で表し良い。

グラフィックレコーディングについて

- (学) 絵を描くのが苦手だが実際に体験してみて興味を持った。今後利用したい。
- (学) 楽しい体験だった。
- (学) インタビューの質問を考えるのが難しかった。
- (神) 見出しに同じ言葉が重なっていたので移動させた。
- (神) グラフィックレコーディングという長い単語を使うのは難しい。短縮を使っているのは発想が良い。
- (神) ポイントは「」で表示されていたので良かった。
- (神) カタカナの多い名詞が多のは読みにくい。カタカナ、ひらがな、漢字が程よく混じっている方が良い。
- (神) インタビューでは対象者の特色が引き出されておりうまくまとまっている。

全体

- (神) 事実の間違いないように確認する。
- (神) 事実が分からない場合は、触れない、分からないことは書かない。

7 振り返り

- ・平成29年度から始めた事業であるが、毎回学生の書きっぷりに驚かされる。特に今年度は神戸新聞社が全ての取材日に付いたわけではなく、Web上だけのやり取りだけの時もあったにもかかわらず、どれも読み応えのあるものに仕上がった。取材対象になった方々にも一様に感激の言葉をいただいた。
- ・学生からは「楽しかった」「学べた」と前向きな感想が多く、成果物を見ても継続すべき事業と確信した。
- ・同席の先生からの感想としては、「生徒たちがこんなに書けるのだと驚き思った。」「良い経験ができたと思う。」「自分の想いは必要かどうかを検討する。」「助詞「も」が多い。」など率直的な意見があった。

以上

